

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属泉北幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②特色ある教育活動を展開し、園児数の確保魅力ある幼稚園としての位置づけを高めていく。
 - ③年度末に自己評価をおこなう。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
 - ③園児・保護者・地域の方向けの講習会の開催
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室の積極的PRに努め、開催日程や内容を地域に発信する
 - ・園庭開放にきた保護者への相談・支援を積極的に行う

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	園児の姿や遊びの記録をもとに、毎日話し合うことで内容の見直しを行い、保育の資質向上に努めた。
②特色ある教育活動の展開	A	iPad 教室などニーズに応じた取り組みを進めた。自然豊かな環境を生かした、学びを積極的に行なった。
2 ①園児の健康観察	A	毎日の検温の実施や登園時に検温表を提出することで、日々の健康観察を実施している。
②感染症対策	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員、園児、保護者のマスク着用。 園の入り口、職員室、くつ箱前、トイレ、保育室などに消毒液の設置。 食事時は園児間にパーテーションの設置。 清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒。 手洗いの推進。 保育後、遊具や玩具、机やいす等の消毒。 必要に応じて、園だより・ホームページでの啓発。
③講習会の開催	A	警察・地域の方と協力した「電動アシスト安全講習会」、園医による「歯科講習会」を行った。
3 地域との連携と子育て支援の充実	A	園庭・保育室開放・未就園児向けおやこ教室を開催。「交通安全指導」や「電動アシスト安全講習会」の開催や、「地域ふれあい花咲活動」などに参加。文化活動「ロイヤルガーデン フェスティバル」には感染予防の為、「ぬりえ」に応募、「キャンル」の製作物の展示に参加し、積極的に取り組んできた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・自己評価の実施で保育の振り返りができた。 コロナの感染状況が日々変わる中、様々な政策に対応しながらできることを模索し、状況に合わせた行事を行うなど子どもたちも色々な経験ができた。 登降園時に園児の様子を直接保護者に伝え、安心につながるよう努めた。 食育や園庭の環境づくりに園児と職員が一緒に取り組むことができた。 クラスだよりで具体的なクラスの様子、HPでは行事や園生活の様子を知らせた。 新しい取り組みを進め、HPで周知活動を積極的に行た。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月避難訓練を行っているが、緊急時における対処方法を教職員全員が実施できるよう、共通認識を持つ努力をする。 AEDの使用方法を今後も教職員全員が定期的に確認する。 遊具の劣化など園庭の環境整備の点検をしっかりと行う。
園のPRと園児数の確保	PR、啓発活動により本園の良さを積極的に広めていく。 未就園児教室や園庭・保育室開放見学会などの開催計画、周知時期や申込方法の改善を行い、園に足を運びやすいように環境を整える。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 良い環境を取り込んで保育にどのように生かすかということが大切で、自然の探検活動など、どう特徴を打ち出していくか、どう組み入れていくのかがさらなる検討課題である。
- 今あるプログラムを一つ一つ深く子ども自身が取り組んでくれるようにプロジェクト型学習を今後検討し、探求心を深めていくということもあってもいいのかもしれないと思う。
- こども園や共働きの家庭が増えているなかで、送迎バスがないのはなかなか難しいのかもしれないが、登降園時に先生から園の様子を聞けるのですごくよかった。
- 祭りが家の周辺でなく、幼稚園で秋祭りや夏祭りが昔あったのがすごく思い出になったので、できたらいいなと思う。
- 幼稚園での様子の写真が HP に掲載されていると、子どもの喜んでいるところがわかるので続けてほしい。

7. 公開保育について

実施日時	令和4年11月28日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属泉北幼稚園 保育室
保育者	あやめ組（年中）担当教諭
テーマ	色混ぜ遊びを通して色が変化する様子を楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術学科 教授
参加者	大阪府幼稚園・保育園・こども園園長、主任、教諭、保護者
総評	保育の流れがとても良く、導入で色に興味を持ち、期待を持って活動に取り組んでいたと思います。担任の先生の元気で明るい雰囲気伝わって、子ども達がワクワクして取り組んでいました。それぞれがいろいろな色を作ることを楽しむことができ、子ども一人一人の発想を尊重しながら取り組まれていました。上手い・下手ではなく、安心できる、自信をもってできる自尊感情を養うことが大切です。子ども達の発達をしっかりとらえ丁寧にゆとりを持った保育をされていて素晴らしいと思います。